

**平成29年度 果樹情報 特別号**  
**～ ももせん孔細菌病と果樹カメムシ類の防除対策 ～**  
 (平成29年4月28日)  
 福島県農林水産部農業振興課

4月25日、福島県病害虫防除所より、ももせん孔細菌病と果樹カメムシ類の防除情報が県内全域を対象に発表されました。せん孔細菌病、カメムシ類ともに、防除対策の重要なポイントは、「早期発見」です。詳しくは、下記の福島県病害虫防除所ホームページを参照ください。

1 ももせん孔細菌病

(1) 発生状況

4月中旬の調査において、福島地域で春型枝病斑が確認されました(図1)。

前年秋期の調査において、新梢葉での発生ほ場割合および発生程度は平年並でしたが、伊達地域ではすべての調査ほ場で発病が確認されており、地域における菌密度が高い状態が続いています(図2)。前年秋季に新梢葉での発生が多かったほ場では、春型枝病斑の発生量が多くなる傾向があるため、注意が必要です。

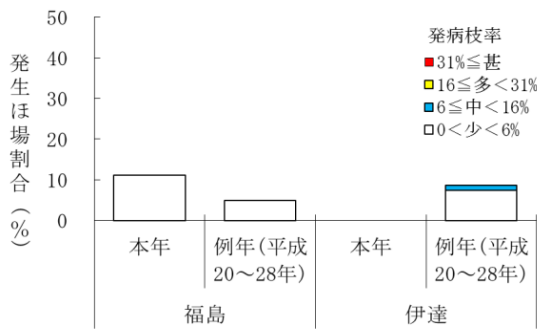


図1 春型枝病斑の発生状況 (4月中旬)

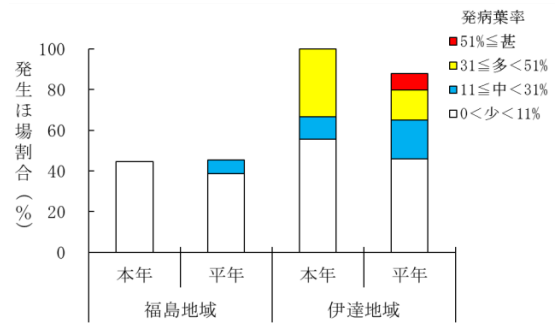


図2 前年秋期の新梢葉での発生状況 (平成28年9月下旬)

(2) 防除対策

ア 耕種的防除

園内をこまめに巡回し、1年枝皮部の黒変や新梢葉の生育不良を目安に、発病が疑われる枝は見つけしだい、せん除してください。

春型枝病斑をせん除する場合、健全部を含めてせん除し、罹病部位が樹上に残らないように注意しましょう。



5月以降には、発病葉や発病果実が二次伝染源となるので、徹底的に除去してください。除去した枝・葉・果実は、園外に持ち出し適切に処分しましょう。

## イ 薬剤防除

落花期から7月まで、10日ごとに薬剤散布を行ってください。その際は、薬剤の使用濃度、収穫前日数に十分注意してください。また、同一薬剤の連用は耐性菌の出現のリスクがあるので、連用せずにローテーションで使用してください。

## 2 果樹カメムシ類

### (1) 発生状況

クサギカメムシのムシロトラップによる越冬成虫数は、全地域で平年より多い状況でした。特に、中通り北部での越冬成虫数は平年よりかなり多いため、5～7月に果樹園への飛来が多くなる可能性があります(図3)。今後の発生には注意が必要です。

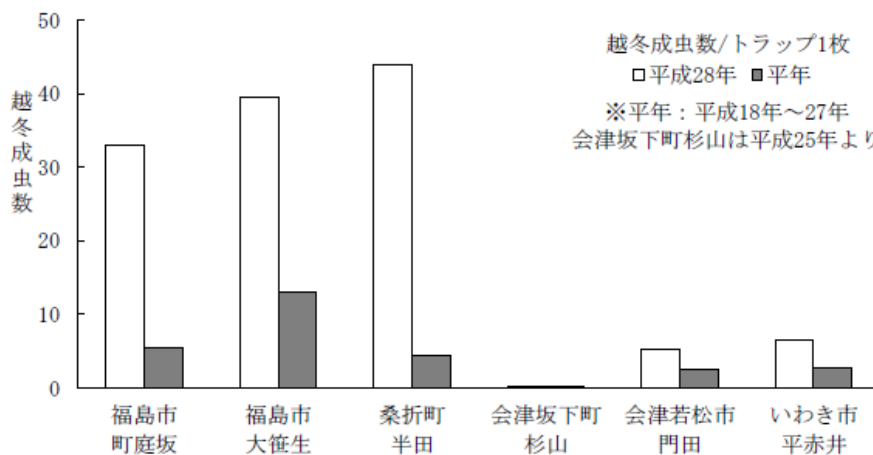


図3 クサギカメムシ越冬状況(平成28年10月上旬～11月下旬調査)

### (2) 防除対策

- ア 果樹カメムシ類は果樹園周辺の山林や雑木林から飛来するので、飛来を確認したら早急に薬剤(有機リン剤、合成ピレスロイド剤、ネオニコチノイド剤)を散布しましょう。その際は、薬剤の使用濃度、収穫前日数に十分注意してください。
- イ 局所的に飛来し被害をもたらすため、定期的に園内を見回り、早期発見に努めましょう。
- ウ 果樹カメムシ類は移動性が大きいので、防除効果を高めるために、できるだけ地域で一斉防除を行いましょ。

### 病虫害の発生予察情報・防除情報

病虫害防除所のホームページに掲載していますので、参照してください。

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬の散布は使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7344

(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>